
喫茶店—gimmick—

微睡みかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

喫茶店ーgimmickー

【Nコード】

N4474C

【作者名】

微睡みかん

【あらすじ】

暑い夜、並木道を歩いていたはずの男は、見知らぬ喫茶店に来ていた。コーヒーを注文した彼に、なにか、不思議なものが流れ込む。「手にしたかったんでしょ?——この欠片を」

Menu00:プロローグ

「ああ、暑い……」

私は歩きながら、額の汗をハンケチで拭った。

熱気を帯びた並木道を抜ければ、コンビニがあるはずだ。そこで何か、飲み物を買おう。

目的地までは、まだ距離がある。

別段、急いでいるわけではないのだから、ゆっくり歩けばいい。

「それにしても、今夜の暑さは尋常じゃないな」

私はハンケチを団扇がわりに、夜の熱気のなかを進んだ。

「はやく」

もう少しで並木道を抜けるという所で、何か奇妙な声がした。

蚊の鳴く程度の音量なのに、耳に付いて離れない。

幻聴だろうか。

あまりの暑さに、神経が参ったのかも知れない。

「そっちじゃない！」

気にせず前に進もうとしたら、先ほどの声に制止された。いったい、どこから聞こえてくるのだろう。

か細いのに、魂を抉られるような鋭い響きだ。

周りを見渡しても、人の姿はどこにもない。
闇に浮かびあがる蒼白い銀杏の葉が、さわさわ、何かを囁きあっているだけだ。

「……」

暑さが嘘のように、その場から消えていた。

「お客様、大丈夫ですか？」

耳の近くで、やわらかい声がした。

鼻をくすぐる香り、閉じた瞼に感じる光が、私の意識をはつきりさせていく。

ゆっくり目を開くと、そこは喫茶店だった。

アンティークに統一された店内には、落ち着いた雰囲気シャンソンが流れている。

私は店内の真ん中あたりの席についていて、目の前のテーブルには、小綺麗なメニューが置いてあった。

コーヒー、紅茶、オレンジジュース……等々、お馴染みの品名が

書き連ねられている。

「ご注文はお決まりですか？」

ふいに、横から声がした。

顔を向けると、ウェイターらしき青年が、微笑を浮かべている。

栗色の髪に、同系色の瞳。彼の飾りない和かな表情は、不思議な安心感を与えてくれた。

「じゃあ、コーヒーを」

注文表を構えている青年に、とりあえずそう告げる。

「かしこまりました」

青年は軽くお辞儀をして、ずっと私の視界から消えていった。それにしても、何故、私は喫茶店にいるのだろう。

自ら来た覚えはないし、連れて来られた覚えもない。

私が悶々としていると、さきほどの青年が、

「お待たせしました」

テーブルにコーヒーカップをそっと置いた。受け皿に、ちょこんと角砂糖がふたつ乗っている。

「最初は、ブラックでお飲み下さい」

私が角砂糖に手をのばすと、青年が穏やかな口調で言った。

「なぜだ？」

「まずは、豆本来の味を、お楽しみください」

怪訝な視線を不快とも思わないらしく、青年は微笑んでいる。

そんな態度に反論する気になれず、私は言われた通りにすることにした。

洒落たコーヒークップを持って、中身を少しだけ口に流し込む。

「……」

苦い。

だが、それとは違う何かが、私のなかに溢れていくのを感じた。

Menu00:プロローグ(後書き)

はじめまして、未熟ながら投稿させて戴きました…。読んでくださ
ったら、それだけで、感無量で御座います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4474c/>

喫茶店－gimmick－

2011年1月27日12時10分発行